

■ 第 63 回研究発表会及び現地見学会における 現地見学会の概要について

第 63 回宮城大会実行委員会

期 日：令和 6 年 9 月 20 日

場 所：宮城県内 JR 仙台駅発着

内 容：貸切りバス使用，雨天決行，事前申込

A コース：募集人員 40～50 名

荒砥沢地すべり・栗駒山麓ジオパーク見学コース

2008 年（H20 年）6 月 14 日に発生した岩手県内陸南部を震源とする岩手・宮城内陸地震（M7.2）により、栗駒山の山腹を中心に約 3,500 カ所の斜面崩壊等が発生しました。本コースは、土砂災害の記録が多く残る栗駒山麓ジオパークビジターセンター及び国内最大級の地すべりである「荒砥沢地すべり」を見学するコースです。

(1) 栗駒山麓ジオパークビジターセンター

栗駒山麓ジオパークでは、「自然災害との共生と豊穡の大地の物語」をメインテーマとして、岩手・宮城内陸地震の経験と教訓を伝承しながら、持続可能な地域づくりに向けた取り組みが進められています。センター内には栗駒山麓の大地の歴史や岩手・宮城内陸地震をはじめとする地域で発生した自然災害の記録や経験を生かし、今後の防災・減災につなげていく展示が行われています。



写真-1 ジオパークセンター内展示室 (HP より)

(2) 荒砥沢地すべり

岩手・宮城内陸地震による土砂災害のうちで、最も大規模な地すべりであり、その規模は斜面長約 1,300m、幅約 900m、面積約 98ha、すべり面の最大深度は 100m を超えます。不安定土砂発生量は約 6,700 万 m³ に及ぶ国内最大級の地すべりで、移動距離は最大で約 300m に達しました。末端部では移動土塊の一部が荒砥沢ダムへ流入し、地すべり地内を通る市道荒砥沢線は、ほぼ原形をとどめることなく破壊、寸断され、頭部では最大約 150m におよぶ滑落崖が形成されました。地すべり活動による直接的な影響が小さい箇所については「対策は行わずに自然の復元に委ねる」という対策方針から発生当時の現象が確認できる非常に貴重なサイトであり、会員及び関係機関所属の方々の技術研修の場としてご参加いただければ幸いです。



写真-2 荒砥沢地すべり全景 (2008.6 撮影)



写真-3 最大 150m に及ぶ滑落崖の状況 (2022.9 撮影)

B コース：募集人員 40 名

東日本大震災伝承施設見学コース

2011 年（平成 23 年）3 月 11 日（金）14 時 46 分に三陸沖を震源として発生した東北地方太平洋沖地震の規模は Mw9.0（気象庁）と、日本の観測史上最大規模の地震です。この地震に誘起された巨大津波は東北-関東地方の太平洋沿岸域を襲い、関連死含む死者数 19,775 名（2024 年 3 月 8 日、消防庁）、住家全・半壊、一部破損 406,038 棟（同上）と甚大な被害を受けています。B コースでは、東松島市野蒜と松島の震災とその後の復興について「見て・聞いて・感じて」いただくコースです。

(1) 東松島市震災復興伝承館

太平洋に直接面した東松島市では、松島湾内とは異なり甚大な津波被害を受けました。

旧 JR 野蒜駅は、海岸線から 0.75km の位置にあり津波被害を直接受け、JR 仙石線は内陸側に移設されました。そして現在、東日本大震災の犠牲者の追悼及び鎮魂を祈念するとともに、震災の記録・教訓を広く後世に伝えるため、震災遺構「東松島市震災復興伝承館」として、また旧野蒜駅プラットホーム周辺が「復興祈念公園」として整備されています。

ここで施設の展示物や映像の見学とともに、震災当時とその後の復興に関する語りを聞きます。

(2) 松島復興語り部クルーズ（丸文松島汽船）

日本三景に数えられる松島が位置する松島湾は、仙台

湾の中央部に位置する支湾で、宮城県東松島市の唐戸島南東端と同宮城郡七ヶ浜町の花渚崎の間にある多島海で、大小260ともいわれる島々が津波を軽減したと考えられています。

主要な島々を遊覧しながら、津波の被害を受けつつも、観光客がケガもなく避難出来た理由とその時の状況・その後の復興について、そして平安時代に創建され、伊達政宗の菩提寺でもある国宝瑞巖寺と松島など、語り部に学ぶ震災と未来、そして人の絆を感じていただくコースです。



写真-4 東松島復興伝承館
(東松島市 HP 震災復興記念公園 (伝承館含む))



写真-5 旧野蒜駅プラットホーム (震災遺構)



写真-6 松島震災復興語り部クルーズ
(伊達な広域観光推進協議会 HP 松島震災復興語り部クルーズ)

Cコース：募集人員 40名

丸森町豪雨災害・津波災害からの復旧復興コース

2019年(令和元年)には、5月から10月にかけて梅雨前線や台風による大雨、防風による河川の氾濫、浸水、土砂災害、家屋の倒壊などの被害が頻発しました。この中で令和元年東日本台風では、東日本や東北地方の多くの地点で3, 6, 12, 24時間降水量は観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となりました。

(1) 丸森町五福谷川地区 (土砂・洪水対策施工地)

宮城県伊具郡丸森町では、24時間雨量587.5mm、時間最大雨量74.5mm(丸森町筆甫観測所)により、五福谷川や廻倉周辺の花崗岩地帯に斜面崩壊が集中し、死者11名行方不明者1名、とくに河川が集中する五福谷川地区では堤防決壊18箇所、浸水域が244haにも及び、住宅、公共施設などに甚大な被害を受けました。

災害は、河川、砂防、道路分野に及び、令和2年に設置された宮城南部復興事務所により災害復旧が実施されており、五福谷川遊砂地や内川の不動尊堰堤のスリット化などの土砂・洪水災害の一体的な復旧工事とその状況を見学します。



写真-7 五福谷川、新川、内川、阿武隈川の洪水氾濫
(東北地方整備局 HP 宮城南部復興事務所令和6年度事業概要)



写真-8 内川流域砂防堰堤及び遊砂地整備
(東北地方整備局 宮城南部復興事務所 令和6年度事業概要)
(2) 仙台市荒浜小学校 (震災遺構)

2011年(平成23年)3月11日の東北地方太平洋沖地震、Mw9.0(気象庁)の地震が発生し、仙台市では最大震度6強を記録しました。沿岸部を襲った巨大津波です。

てのライフラインの途絶，頻発する強い余震があり，仙台市では10万人を超える避難者が発生しました。

震災当日，児童や教職員，住民ら320人が避難したその校舎は，東日本大震災の教訓と地域の記憶を後世へ伝えるために震災遺構として公開されており，丸森町からの帰路，これを見学します。被災の痕跡を鮮明に残す校舎と，被災直後の様子を示す展示等により津波の威力や脅威を実感して下さい。



写真-7 荒浜小学校校舎（震災遺構）
（仙台市 HP 震災遺構仙台市立荒浜小学校）

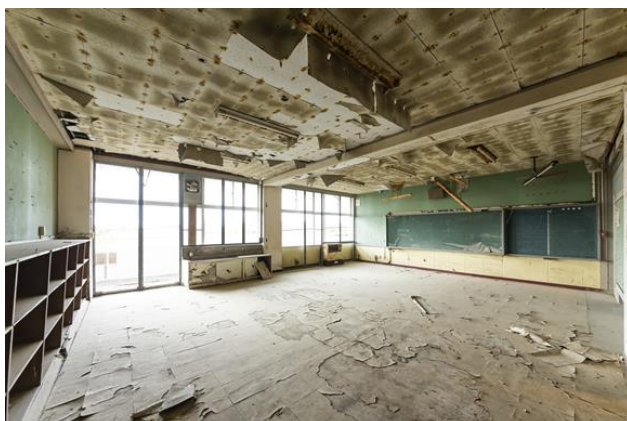
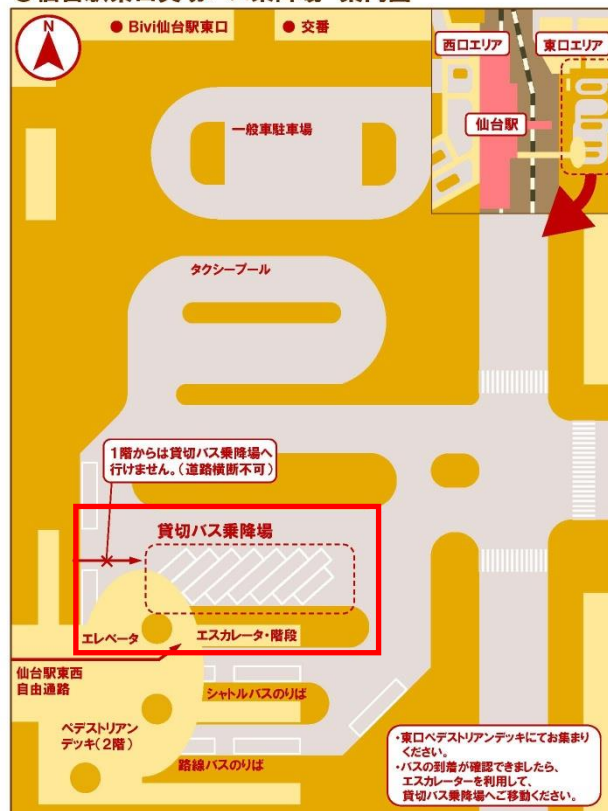


写真-8 荒浜小学校（震災遺構）
（仙台市 HP 震災遺構仙台市立荒浜小学校）

○仙台駅東口貸切バス乗降場 案内図



【各コースの予定スケジュール】

A コース

JR 仙台駅 8：15 発～栗駒山麓ジオパークビジターセンター～昼食～荒砥沢地すべり～荒砥沢ダム～JR 仙台駅 17：00 解散

B コース

JR 仙台駅 9：00 出発～東松島市震災復興伝承館～昼食～松島復興語り部クルーズ～塩竈市内かまぼこ工場見学～JR 仙台駅 16：50 解散

C コース

JR 仙台駅 9：00 出発～丸森町遊砂地現場ほか～昼食～荒花小学校～深沼海岸～鐘崎笹かま管～JR 仙台駅 16：30 解散